

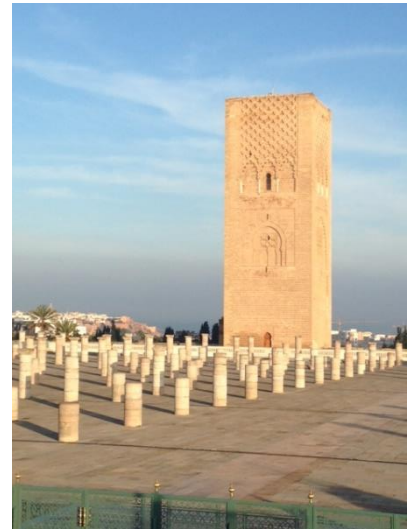


北アフリカモロッコ王国の旅

マグレブ地方「日の沈む地方」と呼ばれるモロッコ王国は、北アフリカに位置し、地中海、大西洋に面しており、広大なサハラ砂漠があります。緑豊かな農村風景に訪れた2月はオレンジが実り、美しく咲きほこるアーモンドやリンゴの花が見事です。そして他人を思いやり、分かち合うことを美德とするモロッコ人氣質に触れ、感動いっぱいの旅でした。日本からは、パリ経由で首都ラバトへ16時間の空の旅。21時過ぎに到着しホテルに向かう途中、綺麗な街という印象を受けました。翌日、早朝にアザーン（祈りの呼びかけ）で目覚め、カーテン越しにモスクへ向かう人々を目にして驚きました。国民99%がイスラム教徒で1日5回祈りをあげます。ホテルの部屋にも、メッカの方角が記されていました。現地ガイドのアーシンさんは、黒く色素沈着した額を指し信仰心があついと屈託無く話していました。

首都ラバトでは、ムハンマド5世廟とハッサンの塔を見学。モザイクの美しい廟内はアカシアの木、エチオピアの金が使われ、シャンデリアはベネチアのものでした。安置される大理石もイタリアやノルウェーといった周辺国から取り寄せられています。ラバトは青い空に椰子の木が映える美しい街です。ラバトから車で2時間「青の街」シャウエン旧市街に行きました。ポルトガルから侵略を防ぐために築かれ、白と青色のコントラストが美しい街です。住人が青の染料を次々に私道に塗ったことが、きっかけでTVで取り上げられる観光地になったようです。狭い石畳みのあちらこちらに、猫を見かけ、マクゼン広場は、露店やオウム使いで賑わっていました。

シャウエン観光後、フェズに戻り、世界1大きな迷路と言われる10キロに及ぶメディナに入り込みました（世界遺産に指定）。ブーイナニア神学校、カラウィンモスク、なめし革職人街タンネリを見学。ベールの女性やロバの運搬車が行き交う狭い路地に果物、衣類、革製品、吊るされた肉（頭付きのヤギが吊るされ）おおーと驚き、喧騒とスパイスが交ざった独特の臭いが興味を掻き立てます。メディナ（旧市街）を一望する高台から、すり鉢状の街は、積木のように可愛い街。リフ山脈を越える途中、コルクの森には、秋に白トリフユが採れるそうです。塩田もあり古代より塩は貴重とされていたそうです。モロッコの輸出産業として、コルクや葡萄、香水用の薔薇はフランスに輸出。薔薇は、フランスで有名な香水会社に取り扱われ、質の良いものと説明がありました。



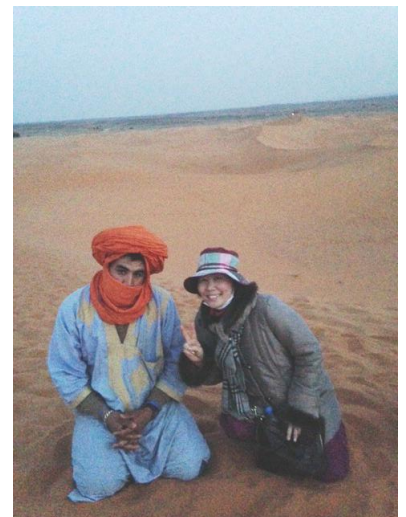


3日目は、古代ローマ遺跡、ヴォルピリス観光です。紀元前1世マウレタニア王のユバ2世が首都に栄えた街。ヴィーナスの家、ゴルディアヌス帝の宮殿、面白かったのは、ローマ人は食べては吐いてを繰り返していたため流れるトイレ!!があったようです。吐くほど、食べなければと思うのですが…。

4日目、モロッコのハイライトであるサハラ砂漠に向かいます。アトラス山脈中腹の街、イフランでコウノトリの巣作りを見つけました。モロッコのスイスと言われ、アルペンリゾートで写真撮影とミントティーの休憩です。モロッコのミントティーは、ガラスのコップに生ミントを茎ごと容器からはみ出すぐらいに入れ、そこへ熱いお茶を注ぎ、信じられない量の砂糖を入れ頂くとメチャクチャ美味しいです。砂糖が少ないと、ミントの苦味が勝り美味しく無いです。モロッコ滞在中、ずっとミントティーを頂き、身体からミントの香りが漂う!!気がしました。1907mの峠を越えズイズ渓谷が見えてきました。大小様々なダム湖を眺めながら、サハラの入口エルフードに到着。1泊分の荷物をバックパックに詰め四輪駆動車に乗り込みます。4台の車は、砂煙をあげ放射線状に走り、ハイウェイで合流する様は、まさにCMのようです。1時間程で砂漠のホテルに到着。砂の赤茶ホテルは、アメニティも充実し、エアコン、ドライヤー完備、水洗トイレでした。ベッドはビッグサイズで砂漠にはモダン過ぎるかなあと思いましたが、快適だったので良かったです。この日は、ホテルのバイキングで赤ワインを頂きました。料理は、野菜中心で温かい野菜に普通のサラダ、オリーブが食べ放題。牛肉煮込み、鳥の煮込み等、味付けが薄いため、塩っぱいオリーブがアクセントになりますが、食事には、醤油を持参（添乗員から参加者が頂いたもの）し、美味しく頂きました。



5日目、5時起床し、いよいよサハラ砂漠の朝日鑑賞へ出発です。ホテルから車で10分ほど走り、ラクダのターミナルに到着。数十頭のラクダが出発を待っていました。次々に、ラクダに跨る光景を観て、丸々と肉付きの良いラクダから、男性が転落したのです。その男性は他のラクダに乗り、私に暴れラクダが回されました。イヤーな予感！振り落とされないようにと全身に力が入りました。いざ、足を上げて乗ろうとし、中々、足が届きません。それを見ていた案内人に二人がかりでヒョイと乗せられました。そして、ラクダは後ろ足から立ち上がり、私は前のめりに、次に前足が立ち、今度は後ろへと身体が大きく揺れました。しっかり、掴まっていないと振り落とされると思いました。事前に、説明があったら男性も転落しなかったのにと考えました。全員ラクダに乗り、いざ出発です。月の砂漠をはあるばあると～と歌いながらぼくぼくと砂漠を30分ほど行きます。鑑賞スポットに到着し、丘に上がるのが大変です。砂に足をとられ、全く上がれずに、ジタバタしていたら案内人が私の手を取り、半ば引きずられながら登りました。汗びっしょりです。朝日が昇るのを1時間程待ちましたが、雲に隠れて戻る

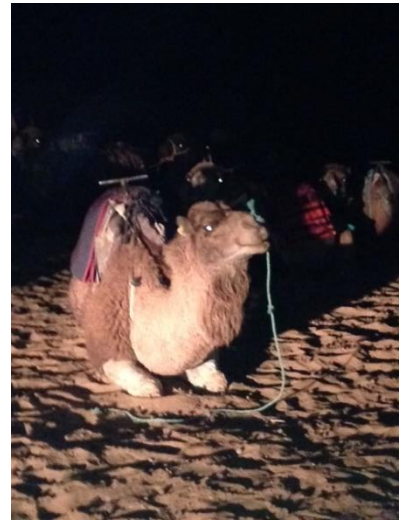


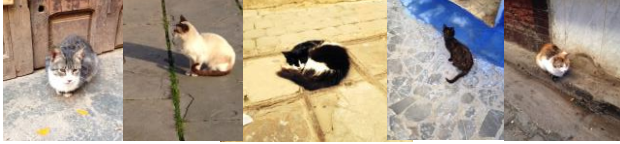


途中に、振り返ると白い朝日と月が見えました。アフリカのラクダは、ヒトコブらくだで、砂嵐に適応しまつ毛は2重に生え、鼻の孔も閉じ、胃袋は3つあり、蓄える構造です。4日間、水を飲まなくても大丈夫で、冬は草のみでイイそうです。そういう、賢いラクダにベルベル人が寄生していると言われたそうです。今、サハラ砂漠では、ソーラーパネルでヨーロッパにエネルギーを輸出する計画があり、工事が始まり、自然環境への影響を心配する声もあると説明されました。サハラ砂漠キャラバンを終え、トドラ渓谷に立ち寄り、アーモンドの花を観ながら渓谷でロッククライミングを眺めて歩きました。少し、冷んやりします。

6日目、ワルザザードに残るティフルトのカスバ（要塞邸宅）を見学。ティフルトは塩の王と呼ばれ、紙幣50DHに描かれています。赤茶色の大きな邸宅というより、城に近いと思いました。砂で造られたカスバは風化しやすいため、保存、管理が難しいそうです。ワルザザードはベルベル語で「平安の地」という意味です。映画の街を観ながらカスバ街道の砂嵐を抜けながら、クサル（要塞化した村）の要塞都市アイト・ベン・ハッドウが見えてきました。ここも、砂で造られたカスバです。橋を渡りクサルを登っていくと、共同倉庫、4ツ角に見張り塔があるカスバが見えました。ここでの写真はセピア色に写っています。砂嵐が原因?!かと思いません。ハイアトラスを越え、2260mティシュカ峠にさしかかり、小さなショップで薔薇のエッセンスにアルガンオイルを買いました。世界でも、モロッコの一部とメキシコでのみ育つアルガンの木は、山羊が木に登り実を食べることで知られ、ビタミンA.Eを多く含みアンチエイジング効果大です。国花の薔薇のエッセンスは1本500円と破格の値段です。この時、峠の気象は雪です。足元は氷が張り、寒さに震えながら買い物をしました。バスはタイヤにチェーンを巻かず、慎重に下りマラケシュのホテルに到着。夜の屋台で賑わうジャマ・エル・フナ広場を歩き、ケバブの匂いに、デコレートされたフルーツの山を横目に空腹を我慢してキョロキョロ眺めました。レストランでは、鰯と野菜のタジン、魚のつみれスープは美味しく頂きました。そしてベルベルダンスと音楽を楽しんでホテルへ戻りました。

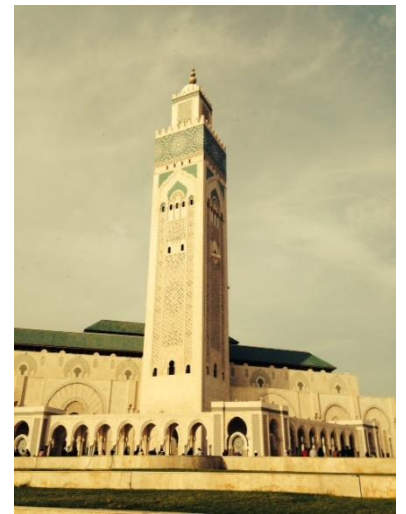
7日目、マラケシュ2日目の観光です。マジョレール庭園に行きます。イブ、サンローランも愛した庭は、世界中の植物が生い茂り、川が流れ、錦鯉が泳ぐ、近代的な建物にオシャレなブルータイルの幾何学模様、その多様性は期待以上でした。次にジャマ・エル・フナ広場の昼のスークは肉屋、革製品、木工





品、絨毯などエリアにより、分かれています。可愛い雑貨も目を楽しませてくれます。広場では、コブラ使い、猿回しに大道芸人に、群がる観光客でいっぱいです。スリに注意と言われ、私は2階のカフェでミントティーを頂きながら広場を眺め、ゆったりと楽しみました。この日のホテルは酒禁止と言われ、ツアー参加者全員でスーパーにお酒など買い出しに行きました。私も熟女3人で頂く赤ワインとビールを買い求め、食後に酒盛りしました。熟女3人は、それぞれ1人参加者です。芸術家タイプの熟女は話が面白く楽しい会話が弾みました。

8日目、マラケシュからカサブランカへ。緑広がる田園風景から大西洋のアルジャディーダへ向かいました。ポルトガルの支配下であったことから、ポルトガルの町並みが続き、漁業が盛んで、タコは日本に輸出しています。現在、アフリカで2番目の港の大都市です。ここでは、ハッサン2世のモスクを見学しました。大西洋に浮かぶ大理石のミナレットは見応えがあります。スークでは、果物や野菜に肉も豊富ですが、あまり、綺麗ではないです。ロマネスク様式の倉庫に貯水路を見学しました。昼食のイタリアンは醤油を使わずに美味しく頂きホテルへ。そして、カサブランカ市内を熟女3人で散歩しました。広場に、丸こげの戦車や乗用車があり危険を察知し、直ぐホテルへ戻りました。ツアー参加者は疲れホテルで休んでいたそうです。元気いっぱいの熟女です笑)。最後の夕食は、赤ワインのフルボトルを3人で頂き、レストランに最後まで残っていましたが、ボーイは迷惑?!だったかも…。



今回は、思い出に残るエピソードでんこ盛りの旅でした。その1つ、モロッコに到着した日は、春の季節でしたが、翌日には夏のように気温が上がり、サハラへ向かうアトラス山脈越えでは雪となり、短い期間にこれ程、季節の変化に富んだ旅は初めての経験でした。2つ目は、サハラ砂漠でツアー参加者に急病人が出るエピソードがあり、砂漠には病院が無くパリの病院へジェット機で搬送されました。この時、医療後進国を旅する際は海外旅行保険に入った方が良いという添乗員の話しに納得しました。そして3つ目、1番の楽しみにしていた、ラクダに乗り月の砂漠をキャラバンできたことです。愛らしいラクダとともに、一生の思い出になります。ぜひ、モロッコに行く際は、醤油持参をお勧めします。また、世界の国の思い出が1つ増えました。



渡辺 郁美